



東日本大震災津波 岩手県立大学の復興支援

平成24年度実績(平成24年4月～平成25年3月)



はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災津波から、早くも2年が経過しましたが、岩手県立大学では、発災直後から被災地への支援を本学の使命として受け止め、教職員や学生の復興支援活動を行っています。

本資料は、これら本学の主な復興支援活動の平成24年度の実績（平成24年4月～平成25年3月までの実施状況等）についてとりまとめたものです。

《資料の構成》

1 学生への支援

- (1) 被災学生への経済的支援
- (2) 平成25年度入試に向けた取組

(4) 学生による支援

(5) 地域との連携

(6) 他大学との連携

(7) 公立大学協会との連携

2 地域社会への貢献

- (1) 各学部、各短期大学部の取組
- (2) 災害復興支援センターの取組
- (3) 地域政策研究センターの取組

3 危機管理対応

- (1) 滝沢キャンパスの状況
- (2) 宮古キャンパスの状況

1 学生への支援

(1) 被災学生への経済的支援

甚大な被害を受けた学部・大学院・短期大学部（盛岡・宮古）に在籍する被災学生等への経済的支援として、入学料・授業料の減免を実施

ア 入学料・授業料の減免

- ① 平成23年度及び24年度入学生の入学料を減免
- ② 平成23年度前・後期及び24年度前期・後期の授業料を減免
- ③ 平成25年度・26年度入学生の授業料減免を決定
- ④ 平成25年度前・後期の授業料減免を決定

【減免の内容(平成24年度実績)】

費目	支援措置	支援対象	金額	免除認定者数
入学料	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定 ・既に納付した後に被災した者に対しては還付 	<ol style="list-style-type: none"> ①住居の被災 (全・半壊、大規模半壊、全・半焼、流失) ②学資負担者の死亡 または行方不明 	学部・大学院 岩手県内225,600円 岩手県外338,400円 盛岡短大部・宮古短大部 岩手県内135,400円 岩手県外203,000円	※平成24年度入学生 [学部・大学院] 34名(H23: 33名) [盛岡短大部、宮古短大部] 13名(H23: 13名)
授業料	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定 	<ol style="list-style-type: none"> ③世帯収入の著しい減少 ④福島原発事故による立退き等 	学部・大学院 前期・後期各267,900円 盛岡短大部・宮古短大部 前期・後期各195,000円	※平成24年度前・後期延べ [学部・大学院] 166名(H23: 217名) [盛岡短大部、宮古短大部] 42名(H23: 52名)

【減免額】

- ・平成24年度入学料 10,175千円 (H23: 10,287千円)
- ・平成24年度授業料(前・後期) 48,119千円 (H23: 65,535千円)

(2) 平成25年度入試に向けた取組

① 県立大学オープンキャンパスへのバス運行を支援

7月1日（日）開催のオープンキャンパスへ、被災地の高校からのバス経費を大学が負担（9校15台分）。参加者数2,400人

② 震災特別入試の実施

- ・ 県内高等学校からの要請等を踏まえ、平成24年度入試に創設した震災特別入試について平成25年度選抜においても下記のとおり実施した。全学部で40名が受験し、22名が合格した。

（参考 H23：39名受験、22名合格）

対象：本人又は保護者が震災により被災した県内の高校生

実施学部：岩手県立大学 全学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部

期 日：平成24年10月21日（日）

募集人員：各学部若干名

- ・ 平成26年度入学者選抜に係る震災特別入試の実施（H25.10.13）を決定した。

③ 平成25年度大船渡高校試験場におけるセンター試験を本学が主幹校となり対応

学内実施体制の構築をはじめ、関係機関との調整を円滑に進め、試験担当大学として適切に試験を実施。 試験実施日時：平成25年1月19日（土）・20日（日）



2 地域社会への貢献

岩手県立大学の復興支援体制

学部・短期大学部

P7~12

学部プロジェクト研究など学部特性や、教員の持つ専門性を活かした支援活動を展開

看護学部

社会福祉学部

ソフトウェア情報学部

総合政策学部

盛岡短期大学部

宮古短期大学部

災害復興支援センター（H23.4.5設置）

被災地域の復興を、教職員や学生のボランティア活動、教職員の派遣等を通じて支援することを目的に設置

- ・ボランティアを希望する学生に備えてボランティア事前研修実施、ボランティア保険加入手続（H23～）
- ・ボランティアバスの運行（H23：5回、H24：8回）、活動に必要な物資の提供や必要経費の配分（H23～）
- ・海外の大学との交流活動実施（H23～）

p13.14

地域政策研究センター（H23.4.1設置）

地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に設置

- ・「震災復興研究部門」を設置し、「暮らし」、「産業経済」、「社会・生活基盤」の3分野において15課題の研究を推進（H23～）
- ・「地域協働研究」として、①教員提案型、②地域提案型（共同研究実施）の2分野において地域課題等を解決するための研究を推進（H24～）

p15-20

連携

学生

学生の活動についてはp6参照

学生の活動状況

いわてGINGA-NETプロジェクト p21. 22



宮古短期大学部
学生赤十字奉仕団(JRC) p23



復興girls* p24



カッキー's p24



学生

緑のカーテン p26



水ボラ p25



健康支援と食育支援 p25



合唱団polish p27



※学生団体は
本資料で紹介
しているもの
のみを掲載。

学部の主な取り組み

看護学部

教員の専門性を活かした取組

○ 災害時の糖尿病医療体制構築の取り組み（看護師）

- ・ 時期：平成23年5月から継続
- ・ 場所：岩手県・宮城県・福島県の被災地
- ・ 概要：日本糖尿病学会の研究チームの一員として、『東日本大震災から見た災害時の糖尿病医療体制構築のための調査研究』を実施。調査対象者は被災した糖尿病患者とその療養指導に従事している看護師。被災時の具体的な支援方法について調査研究を実施。被災時、患者は普段から療養生活を適切に自己コントロールしていること、看護師は普段から適切な療養指導を十分に行っていることが大切であることなどが明らかとなった。

○ 被災地での母子や女性の健康支援活動（助産師）

- ・ 時期：平成22年から継続
- ・ 場所：岩手県内
- ・ 概要：妊産婦や母子は災害弱者となりやすい状況を考慮し、仮設住宅のあり方について検討し提言するとともに、妊婦や育児中の母親たちの防災に関する『自助力』を向上させるためのガイドブックを作成している。被災地の助産師による貴重な当時の妊産婦や母子の状況の情報が盛り込まれており、自助力向上に有用であり、病院・医院や市町村の保健センター、保育園、子育て支援センター等に配布した。

○ 震災後の難病および慢性疾患患者の療養生活支援活動（保健師）

- ・ 時期：平成23年から継続
- ・ 場所：岩手県内
- ・ 概要：震災を経験した難病および慢性疾患患者の療養生活の実態を把握し、患者・家族支援の課題を明らかにするとともに今後の難病対策事業に役立てることを目的として取り組んでいる。在宅療養者では停電により人工呼吸器などが使用できなくなり生命維持管理に直接影響したことや、寒さにより病状が急激に悪化したことなどが明らかとなった。



学部の主な取り組み

社会福祉学部

学部プロジェクト研究

- ・被災地におけるケアラーの実態調査研究（宮古・山田・大槌地区）
- ・東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究-釜石市市民の精神的健康の実態把握とその支援-（釜石市）
- ・岩手県における東日本大震災沿岸被災地の社会福祉施設実態等調査（岩手県沿岸地域の施設・事業所）

ボランティア活動支援

○ 被災地への支援物資配送活動

- ・時期：平成23年年4月25日から平成25年3月
- ・場所：大槌町、陸前高田市、釜石市、大船渡市、宮城県石巻市
- ・概要：全国の保育園・幼稚園の園長等より、金品物資の提供を受け被災各地の幼稚園や保育園に直接届けるなど、訪問しサポート活動を行っている。平成24年度には7カ所訪問。支援物資は各施設のニーズを把握しながら必要なものを提供できるような活動を行っており、現在も継続中。

○ 仮設住宅での韓国料理のボランティア

- ・時期：平成24年5月
- ・場所：遠野市仮設住宅
- ・概要：平成23年12月に本学部実習施設である韓国ソウル鐘路老人総合福祉館より館長他3名が遠野市仮設住宅に来訪し、交流をもつ機会があった。平成24年には教員2名、学生6名で同地を訪問し、韓国料理講師の協力のもとで韓国料理を振舞う自主ボランティアを行った。
この様子は、鐘路老人総合福祉館での震災報告会でも報告された。



学部の主な取り組み

ソフトウェア情報学部

学部プロジェクト研究



○ 被災地の定点観測配信システム「復興ウォッチャー」の研究開発

- ・ 時期：平成24年4月～平成25年3月
- ・ 場所：（村山研） <http://www.comm.soft.iwate-pu.ac.jp/emergency/>
- ・ 概要：被災地の復興の状況を多くの人々に知ってもらうために、インターネットを通して現地の画像を配信するシステム「復興ウォッチャー」の開発及び運用

○ 社会情報システム学アプローチによる震災復興・防災支援の調査研究

- ・ 時期：平成24年4月～平成25年3月
- ・ 場所：（阿部研）
- ・ 概要：社会情報システム学講座におけるこれまでの研究成果を活用し、東日本大震災に係る復興支援や地域の安心・安全に資すると思われる1) 観光風評被害対策のための事例ポータル、2) 災害時利用も考慮した道路等の維持管理システム、3) 利用者の安全面に配慮したユニバーサルデザイン支援システムの3つのサブテーマを設定。H23年度成果を踏まえ、学生の卒業研究指導と連動する形で調査研究を実施した。

○ 大規模災害にも対応できる自律型地域情報インフラストラクチャの研究

- ・ 時期：平成24年4月～2013年3月
- ・ 場所：（柴田研） <http://www.sb.soft.iwate-pu.ac.jp/research5.html>
- ・ 概要：今回の大震災において、三陸沿岸部の被災地域のこれまでの情報インフラを調査し、災害時の問題を明らかにする。そして今後同程度以上の災害が発生しても壊れない、あるいは壊れても迅速に復旧できる大規模災害に対応できる完全自律型の情報インフラを検討して本システムの機能および性能を行い、本システムの有効性や問題点を評価した。

復興教育

○ 震災復興支援を題材とした授業運営

- ・ 時期：平成24年度通年
- ・ 場所：岩手県立大学ほか
- ・ 概要：①平成24年度の卒業研究においては13名が震災復興支援を題材とした研究に取り組んだ。これらの研究成果は平成25年2月8日に開催された卒業研究発表会の「災害と防災」セッションにおいて発表された。
②プロジェクト演習科目群において20講座76グループ中41グループが震災復興支援をテーマとしたプロジェクトに取り組んだ。

学部の主な取り組み

総合政策学部

学部公開講座

○ 総合政策学部 公開講座（総政カフェ）

「東日本大震災と岩手県沿岸の民俗芸能—地域を支えるチカラ—」

- ・ 時期：平成25年3月16日（土）13時～16時
- ・ 場所：いわて県民情報交流センター（アイーナキャンパス学習室1）
- ・ 概要：基調講演（橋本裕之教授・追手門学院大学）、研究発表（総合政策学部4年生）の後、震災後の岩手沿岸民俗芸能の現状をテーマに、パネルディスカッションを行なった。パネリストとして鶴住居虎舞と鶴鳥神楽の舞手・神楽衆および鶴鳥神楽の神楽宿（箱崎白浜）ご夫妻が加わった。



岩手県立大学総合政策学部公開講座（総政カフェ）
アイーナ
東日本大震災と岩手県沿岸の民俗芸能
～地域を支えるチカラ～



岩手県沿岸には、人々の生活に寄り添った多くの民俗芸能が伝承されています。東日本大震災に際しては、大規模な被害を受けた一方、震災や被災地の様子などからその社会的役割が改めて注目されることになりました。また、復興からさまざまな課題が生まれると共に、さまざまな人々の関心や期待、各地の賑わいのあり方にも少なからぬ変化をもたらしつつあります。

東北の絆で結ばれた復興の推進者や関係者を通じて、震災の被害や被災地における民俗芸能の実践、現在残る課題などについて議論を行います。

皆さまの参加を、お待ちしております。

日 時：平成25年3月16日（土）13:00～16:00
会 場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）7階アイーナキャンパス学習室1
参加費：無料
お申込み：不要

プログラム

【第1部】沿岸の民俗芸能と絆の世界をつなぐ 13:00～13:35
基調講演 橋本裕之（追手門学院大学・岩手県文化財保護審議会委員）
研究発表 鶴住居 虎舞（岩手県立大学総合政策学部学生・中継・生演）

【第2部】地域を支えるチカラとしての民俗芸能 13:40～16:00
ビデオ上映「東日本大震災以降の岩手沿岸民俗芸能の現状」（阿部武司氏制作 10分）

報告 佐々木孝行（鶴住居虎舞）
鶴山孝幸（岩手県立大学・鶴鳥神楽神楽白浜組）
工藤淳希（鶴鳥神楽）

総合討論 14:30～16:00
司会進行 児市健（岩手県立大学総合政策学部）

【お問い合わせ先】岩手県立大学アイーナキャンパス（電話：019-606-1770）

学部プロジェクト研究

○ 総合政策学部 防災・復興研究会「研究成果報告集」平成25年3月

- ・ 時期：刊行年 平成25年3月
- ・ 場所：岩手県立大学 総合政策学部 防災・復興研究会 編
- ・ 概要：防災・復興研究会が、学部プロジェクト研究として取り組んだ平成22～平成23年度の活動、公開フォーラムの開催、および、研究成果（13課題）等を報告書にとりまとめた。

復興教育

○ 「総合政策入門」の授業（1年次必修）を三陸地域の復興・再生をテーマに実施

- ・ 時期：平成24年4月～8月
- ・ 場所：共通講義棟101講義室
- ・ 概要：三陸地域の復興・再生をテーマに、総合政策学部の教員がオムニバスでそれぞれのアプローチで現状と復興に向けた課題を講義したほか、震災に対する行政の対応について、陸前高田市の副市長の講演を組み込んだ。

学部の主な取り組み

盛岡短期大学部

教員の専門性を活かした取組

- ・震災廃木材利用「復興ボード」活用した復興住宅「ぬくだまり」建築プロジェクトに参画（4月～3月、宮古地区）
- ・食の復活プロジェクト、料理教室、栄養教室などを通じて、被災者の食の自立と意欲の向上、健康づくりの意識を高める取組みを実施（5月～12月、大槌地区6回、野田村5回、福島県新地地区1回 外部資金（クレハプロジェクト）活用



学部プロジェクト研究

- ・時期：平成24年6月～平成25年3月
- ・宮古地域の地元企業による「省CO2先導事業」モデル住宅の居住環境及びエネルギー消費量に関する研究
- ・三陸沿岸被災集落における統合の絆としての文化的共有資源・伝承の現状調査ー山田町を中心にー
- ・東日本大震災時、発生後及び復興期における災害時通訳ボランティアの役割に関する調査研究

ボランティア活動支援

○ 学生と教員が協同してのボランティア活動

- ・炊き出しによる栄養支援と被災保育園児への食育に係る活動（4月～12月に6回、野田村、山田町）
- ・飲料水ペットボトル配布、住民との交流活動（水ボラ、5月～3月に16回、陸前高田市広田 半島地区）
- ・オハイオ大学学生と県立大学四大部・短大部学生との共同ボランティア活動（国際交流とも 結びつくもの（9月、宮古市、大槌町）

なお、水ボラは平成25年度にオハイオ大学の復興支援プロジェクトとジョイント活動する計画その準備段階として2月中旬にオハイオ大学で水ボラのレクチャーを数回行い、活動に対する理解を深めた。



学部の主な取り組み

宮古短期大学部

教員の専門性を活かした取組

○ 宮古市田老『学ぶ防災』—教育観光プログラムの検討—

- ・ 時期：平成25年3月9日
- ・ 場所：日本観光学会東北支部年度大会（仙台市）
- ・ 概要：被災地の復興にとって重要な課題である観光客入込数の増加について宮古市田老をフィールドとして検討を実施し、研究成果を発表した。

学部公開講座

○ 生涯学習講座

- ・ 時期：平成24年8月10日
- ・ 場所：宮古短期大学部
- ・ 概要：「復興の精神とは」という標題で、地域の視点から復興の現状とその課題を取り上げ、地域社会の方向性や今後の展望について受講生と話し合った。

ボランティア活動支援

○ 宮古短期大学部学生赤十字奉仕団（JRC）

- ・ 時期：常時（主に週末）
- ・ 場所：宮古地区応急仮設住宅集会所等
- ・ 概要：宮古市社会福祉協議会と連携した学生の支援活動
 - ① 児童・生徒の学習支援、② 子供パーク、
 - ③ 被災写真の電子データ化、DoNabenet、イベントの手伝いなど地域における様々な支援活動にほぼ毎週末参加し、被災者の生活をバックアップ



(2) 災害復興支援センターの取組 (ボランティア活動等への支援)

①組織体制

助言・調整等

災害復興支援センター
(H23.4設置)

運 営
委 員 会

センター長

副センター長

復興支援員

看護学部、社会福祉学部、
ソフトウェア情報学部、総合政策学部、
盛岡短期大学部、宮古短期大学部

連携

岩手県立大学 学生ボランティアセンター

②活動状況

H24年度実績

必要な物資の調達・貸与

腕章、ビブス、ヘルメットなどの貸出し

活動計画受付及び経費の支援

・28件受付 ・2,688千円支援

ボランティア事前研修会実施、
ボランティア活動保険への加入手続き

- ・災害ボランティア事前研修
4回、受講者数24人(学生15人、教職員9人)
- ・ボランティア活動保険への加入
314人

ボランティアバスの運行、
オハイオ大学との交流活動実施

- ・ボランティアバス8回運行、参加者74名(教職員21名含む)
- ・オハイオ大学との交流活動実施、本学参加者28名(教職員7名含む)
※詳細は次ページ

寄付金の受入、活用

平成24年度受入 1件、3,000千円

活動事例① ボランティアバスの運行

1 運行日

①6月19日/②7月28日/③9月8日/④10月13日/⑤10月20日/⑥11月10日/⑦11月18日/⑧2月23日

2 ボランティアの活動場所

グリーンピア三陸みやこ（宮古市田老地区） ①②③⑤
 椋内仮設団地（宮古市田老地区） ⑥⑧
 オートキャンプ場モビリア（陸前高田市） ④
 釜石市内10箇所の仮設団地（釜石市） ⑦

3 ボランティア活動の内容及び参加者

- ① 地域住民との交流を兼ねながらの清掃活動、お茶っこ会（参加者 学生5名、教職員3名）
- ② 地域住民との交流を兼ねながらの清掃活動、よろず相談（参加者 学生8名、教職員1名）
- ③ お茶っこ会（参加者 学生3名、教職員3名）
- ④ 荷降ろし、運搬作業（参加者 学生15名、教職員7名）
- ⑤ お茶っこ会（参加者 学生7名、教職員3名）
- ⑥ お茶っこ会（参加者 教職員2名）
- ⑦ パソコン設置等作業（参加者 学生15名）引率職員1名
- ⑧ お茶っこ会（参加者 教職員2名）



活動事例② 海外の大学との連携

～オハイオ大学・岩手県立大学の学生たちが活動を共に～

平成23年度に引き続き、日本の大学へ短期留学中のオハイオ大学学生・同大関係者が、本学の学生と交流及び連携してボランティア活動を実施。今後も両大学が連携した復興支援活動を継続していくこととしている。

1. 参加者

(1) 本学グループ (28名)

学生：21名 盛短国際文化学科16名・社会福祉学部2名
 リトウェア情報学部(院生)3名、引率教職員：7名

(2) オハイオ大学グループ (23名)

学生：16名、引率教員：7名

2. 活動日程

- 9月21日（金）・県立大学学生による学内案内、両大学の紹介・交流
 （宮古市へ移動）・宮古短大の復興支援研究及び活動状況報告受講 ・被災地視察（宮古観光協会「学ぶ防災」）
- 9月22日（土）・宮古市内でのボランティア活動 → 市内仮設住宅、学校など6地区において交流活動
 ・学生による意見交換会 → 住民の話し、いわてGINGA-NETメンバーからの活動状況報告を聞き、意見交換。
- 9月23日（日）・大槌町内でのボランティア活動（菜の花プロジェクト）等



(3) 地域政策研究センターの取組

①地域政策研究センターの設置と概要

- ◇ 地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に、平成23年4月に設置。
- ◇ 3.11東日本大震災により、地域政策研究センターの1部門として、4/28に震災復興研究部門を設置。「暮らし」、「産業経済」、「社会・生活基盤」の3分野において15課題の研究を推進。
 - 暮らし分野【コミュニティの絆を活かした暮らしの創造と再建】 4課題
 - 産業経済分野【地域特性を踏まえた産業経済の再建】 6課題
 - 社会・生活基盤分野【災害に強いまちづくりとインフラ・システム整備】 5課題
- ◇ 平成24年度には、「地域協働研究」として、学内教員と地域団体等(県・市町村等の公共団体、地域団体、NPO等)との協働により、地域課題等を解決するための研究を対象に震災復興研究及び一般課題研究を推進。

教員提案型【学内教員が地域団体等と行う共同研究を対象、地域ニーズに対応した研究を推進】
震災復興関係は、9課題中8課題

地域提案型【地域団体等を対象に地域課題を公募、学内教員とのマッチングを経て研究を推進】
震災復興関係は、前期は21課題中9課題／後期は8課題中3課題

(3) 地域政策研究センターの取組

② 震災復興研究部門 (H23～)

暮らし分野、産業経済分野、社会・生活基盤分野の計15課題の研究を推進

課題名

代表者名 (学部)

- | 課題名 | 代表者名 (学部) |
|---|-----------------|
| ○「復興計画策定と新たな地域社会構築のための多縁コミュニティ形成に向けた実践的研究」 | 総合政策 教授 倉原 宗孝 |
| ○「被災地における社会的孤立の防止と生活支援型コミュニティづくり」 | 社会福祉 教授 小川 晃子 |
| ○「野田村被災者のイメージマップによる参加的な食の再構築ー岩手県民の今後の食生活の方向性をデザインする試み」 | 盛岡短期大 准教授 乙木 隆子 |
| ○「被災地域における複合型福祉拠点に関する基礎的研究」 | 社会福祉 教授 宮城 好郎 |
| ○「被災地における経済復興への課題
-中小企業の経済的困難の現状分析を通じて-」 | 総合政策 講師 金子 友裕 |
| ○「岩手県における水産業の復旧・復興を巡る利害関係にもとづく水産特区
・漁港再編に対する批判的研究-漁家、漁協、国・県・市町等の実態分析を中心に-」 | 総合政策 准教授 栗田 但馬 |
| ○「岩手県沿岸地域における観光業の復興及び創職に関する研究」 | 総合政策 教授 吉野 英岐 |
| ○「被災地における「ものづくり産業」の再編と新規立地の可能性」 | 宮古短期大 教授 植田 眞弘 |
| ○「被災地従業員のメンタルヘルス支援による産業経済の再建」 | 社会福祉 教授 青木 慎一郎 |
| ○「水産業クラスターの復旧・復興条件の解明」 | 総合政策 講師 新田 義修 |
| ○「三陸復興国立公園・三陸ジオパーク指定のための震災遺産等の保全、国立公園
利用施設計画（インフラ）及び震災語り部（ジオパークガイド）育成に関する研究」 | 総合政策 教授 渋谷 晃太郎 |
| ○「被災地の復興過程における住民意識の研究」 | 総合政策 准教授 阿部 晃士 |
| ○「中・長期的視点に立った地域復興・防災教育プログラムの開発と実践」 | 総合政策 准教授 伊藤 英之 |
| ○「仮設住宅の改善および仮設住宅地におけるまちづくり提案」 | 社会福祉 教授 狩野 徹 |
| ○「在宅療養者の被災実態と防災教育の取り組みの方向性」 | 看護 准教授 上林 美保子 |

暮らし

産業経済

社会・生活基盤

(3) 地域政策研究センターの取組

② 震災復興研究部門 (H23~)



暮らし分野
・「被災地における社会的孤立の防止と生活支援型コミュニティづくり」
小川教授



暮らし分野
・「野田村被災者のイメージマップによる参加的な食の再構築
ー岩手県民の今後の食生活の方向性をデザインする試みー」 乙木准教授



産業経済分野
・「被災地従業員のメンタルヘルス支援による産業経済の再建」
青木教授



社会・生活基盤分野
・「仮設住宅の改善および仮設住宅地におけるまちづくり提案」
狩野教授

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究部門 (H24~)

教員提案型

課題名

代表者名 (学部)

- | | |
|---|------------------------------|
| ○ 「「見守り」を核とするICTを活用した医療・福祉連携策の検討」 | 社会福祉 教授 小川 晃子 |
| ○ 「『語り部くん』携帯端末による観光客行動自動集計
及び地域経済振興の研究」 | ソフトウェア情報
准教授 蔡 大維 |
| ○ 「東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究
—釜石市健康調査の分析による被災後の市民の精神的健康の実態把握—」 | 社会福祉 准教授 中谷 敬明 |
| ○ 「若者の支援を通じた社会起業家育成機会の創造とシステム構築」 | 総合政策 准教授 西出 順郎 |
| ○ 「健康支援の専門家である県内看護師がつくる
被災地住民の居場所づくりに関する実践研究」 | 看護学部 教授 三浦 まゆみ |
| ○ 「岩手県の震災復興状況に関する
長期モニタリング調査と質的情報の解析手法の開発」 | 総合政策 教授 高嶋 裕一 |
| ○ 「津波の記憶を忘れないためのWeb上の津波資料館の構築」 | ソフトウェア情報 教授 村山 優子 |
| ○ 「ソーシャルメディアを対象とした大震災に関する
被災女性ニーズ抽出の研究」 | ソフトウェア情報
准教授 バサビ・チャクラボルティ |

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究部門 (H24~)

地域提案型【前期】

課題名	提案者	代表者名 (学部)
○「岩手沿岸における震災復興ビジネスの成果と限界 (岩手県における人口の社会減対策の強化 に向けた課題整理)」	岩手県	総合政策 准教授 栗田 但馬
○「被災地における絶滅危惧植物 ミズアオイとピオトープの再生」	NPO法人AEA	総合政策 教授 平塚 明
○「岩手県災害派遣福祉チームについて」	岩手県 社会福祉協議会	社会福祉 准教授 都築 光一
○「復興支援活動における行政と 民間の協働のあり方に関する研究」	一般社団法人東日本絆 コーディネーションセンター	総合政策 准教授 西出 順郎
○「被災地の復興まちづくりにおける ユニバーサルデザインの課題について」	岩手県	社会福祉 教授 狩野 徹
○「子ども・子育て家庭支援に向けた 地域連携に関する研究」	洋野町	社会福祉 准教授 山本 克彦
○「いわて三陸オリジナルの ジオツーリズムプログラムの開発と実践」	いわて三陸ジオパーク 推進協議会	総合政策 准教授 伊藤 英之
○「サポート拠点の効果的な整備及び運営について」	大槌町	社会福祉 教授 狩野 徹
○「コールセンターを核とした地域連携と地域振興」	洋野町	宮古短期大 准教授 岩田 智

(3) 地域政策研究センターの取組

③ 地域協働研究部門 (H24~)

地域提案型【後期】

課題名

提案者

代表者名(学部)

○「被災地における交流事業への高齢者参加促進システムの有効性検証
～予約・備忘通知機能を活用して～」

株式会社ぴーぷる 社会福祉 教授 小川 晃子

○「東日本大震災津波における福祉避難所の状況と課題について」

岩手県 社会福祉 准教授 細田 重憲

○「釜石におけるスポーツイベントに向けたラグビー民族誌の作成」

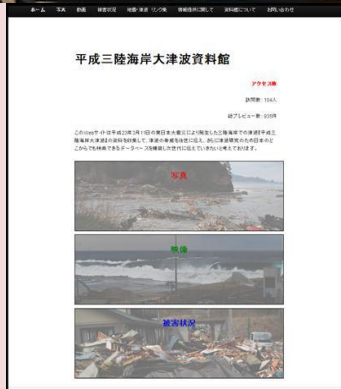
釜石シーウェイブスRFC 盛岡短期大 准教授 原 英子



教員提案型
・「津波の記憶を忘れないためのWeb上の津波資料館の構築」 村山教授



地域提案型
・「被災地における絶滅危惧植物ミズアオイとビオトープの再生」 平塚教授



(4) 学生による支援

①学生ボランティアを中心とした地域コミュニティ復興支援

いわてGINGA-NETプロジェクト

震災直後、岩手県内では若いボランティアが不足。一方、学生たちは、移動手段や宿泊場所・食事の確保の難しさから活動に参加できずにいた。こうした中で、本学の学生ボランティアセンターが立ち上がり、NPO法人等の協力を得て「いわてGINGA-NETプロジェクト」を結成。

これにより、これまでにない規模で、全国の学生ボランティアによる被災地支援活動が展開された。平成24年度も変化するニーズを捉えながら活動を続けた。

- 学生の長期休業期間を活用し、応急仮設住宅でのサロン活動、学校・公民館での子どもの居場所支援、漁業支援等、被災地の多様化したニーズに対応した。

「夏銀河」期間：8月～9月の7週間

活動地域：釜石市、陸前高田市、大船渡市、宮古市、住田町

参加学生：567名（87大学）

「冬銀河」期間：12月～1月の1週間

活動地域：釜石市

参加学生：27名（16大学）

「春銀河」期間：3月の2週間

活動地域：釜石市、大槌町

参加学生：53名（32大学）

- 県立大学では平成23年度から国の補助を受け、「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を実施しており、このような学生ボランティアによる被災地でのコミュニティ支援や学習支援、学生ボランティアの育成等を進めている。
- こうした活動の成果を引き継ぐ形で、平成24年2月には本学の学生有志を中心に特定非営利活動法人いわてGINGA-NETが発足。平成24年度の被災地のコミュニティ支援活動に主体的に取り組んだ。



(4) 学生による支援

② 学生ボランティアによる小中高校向け学習支援・居住支援 いわてGINGA-NETプロジェクト

県大と一般社団法人子どものエンパワメントいわてと協働し、被災地の子どもたちの居場所づくりと、大学生による傾聴が可能な自学自習方式の学習支援を行い、心のケアと同時に進学への意欲や進路決定、夢の実現へ向かうことを目的に取り組んでいる。

平成24年度はそれまでの取組みを継続しつつ、地域のニーズを捉えて箇所を増して実施している。岩手県立大学からは3市へ延べ260回、431名の学生ボランティアを派遣した。また、利用登録生徒は311名おり、17校から延べ1,277名が参加した。また、学生ボランティア対応時間外にも、延べ6,836名の生徒が自習室を利用した。

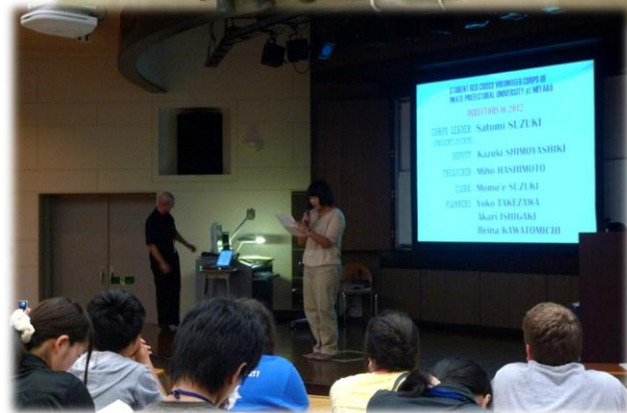
<p>陸前高田市 第一中、横田中、米崎小、広田小</p>	<ul style="list-style-type: none">・平成23年11月から、中高生対象実施中・週3～6回の開催(平日19時～21時、日曜日9時～15時)・学習支援相談員9名が交替で常駐・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続
<p>大船渡市 大立仮設住宅、越喜来地区(杉下・甫嶺、仲崎浜仮設住宅)</p>	<ul style="list-style-type: none">・平成24年7月から、小中高生対象で実施中・週3～4回の開催(平日19時～21時、日曜日9時～15時)・学習支援相談員1～2名が常駐・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続
<p>宮古市 鍬ヶ崎ODENSE2、崎山自治会館、佐原地区センター、駒形通公民館</p>	<ul style="list-style-type: none">・平成24年2月から、中学生対象で実施中・週1～2回の開催(平日15時から18時、土・日曜日9時～15時)・岩手県立大、宮古短期大学部の学生ボランティアによるサポートを継続



(4) 学生による支援

③ 宮古短期大学部学生赤十字奉仕団 (JRC) (設立:平成20年度)

- 平成20年度の活動開始以来、宮古市社会福祉協議会との緊密な連携のもと、地域住民の要請に応えるよう奉仕活動を実施している。
- 東日本大震災発生後は、被災者支援の活動を主として、側溝の海水や泥の清掃、個人宅の片付け、支援物資の仕分、仮設住宅のサロン運営の補助やシチューなどのお振舞い、独居高齢者の孤立を防ぐ訪問活動や生活再建への協働など地域の復興に向けたボランティア活動に従事。
- 今年度は、「あきんど復興市」や「仮設住宅での創作パン講座」等様々な復興関係のイベント補助、中学生への学習支援の継続実施、年少の子ども達と「子どもパーク」で遊びを通じた知育活動、被災写真の電子データ化、オハイオ大学訪問団への活動説明・共同支援活動等、多岐に渡る活動を実施している。
- また、日本赤十字社から正式に「学生赤十字奉仕団」として登録され、赤十字精神を基礎にした活動を自ら企画し、計画的に実行しており、地域とのつながりをより強く深いものになっている。



(4) 学生による支援

④ 被災地企業の応援、仮設住宅入居者の健康支援

《復興girls*》

「復興girls*」は昨年、総合政策学部的女子学生9人組から始まり今年には男子学生も新メンバーに加わり現在は30名。

平成23年度に学生個々の就業力向上を目指す「IPU-Eプロジェクト」に採択され、大学公認プロジェクトとして活動。沿岸部の生活の糧となる仕事の復興の手助けをしたい思いから、現地で企業などと相談を重ねて商品を開発。昨年度「社会人基礎力育成グランプリ大会」において準大賞受賞した。

今年は新作も加わり昨年と同様にイベントなどで商品の販売PRに努めている。

県外の人たちに復興支援に感謝を伝える県作製の広報ポスター「復興支援感謝ポスター」に選出され、全国の自治体や企業に配布、また東京都営地下鉄内や県外イベント広告にも掲示された。県内外でも注目を浴びて活躍している。



《看護学部 カッキー's》

山田町の保健師をしている先輩からボランティア不足の訴えを聞き、学生有志により昨年11月にボランティアチームを発足し、心や健康サポートをするサロン活動を実施している。山田町の特産「牡蠣」にちなんで「カッキー's」と命名。毎月定期的に仮設住宅を訪問し、仮設入居者の心理・健康支援活動を行っている。

マッサージ、血圧測定、カッキー's独自のストレッチ運動、各種健康講座も学生自ら開催し、注意点などポイトをまとめた手づくりプリントを配布し好評を得ている。また、さんさ踊り・餅つきなど季節のイベントも開催し、地域住民との交流を深めており、学生の訪問を楽しみにしている住民も多い。カッキー'sの活躍を聞き、他の地域からも依頼要望があり、特別養護老人ホーム等でも活動している。住民の健康維持を支援し、看護学部ならではの支援で長期的に被災地を支える。



(4) 学生による支援

⑤ 学生 & 教員によるボランティア活動

《健康支援と食育支援》

野田村では、栄養不足を解消するメニュー（学生作成）により盛岡短期大学部学生と教員が炊き出しを毎月1回定期的に実施。毎回、長蛇の列で住民の皆さんから好評を得ている。

また、山田町の大沢保育園にて、食育支援を兼ねたお楽しみ会を実施。カレーライスとサラダを園児達と一緒に調理。材料切りでは、学生が園児を補助し、安全に楽しく調理を行い、その後一緒に食事をした。食後は、学生と園児達と遊びによる交流を深めた。



《飲料水ペットボトルの配布（通称：水ボラ）》

本学教員を中心に、県立大学学生と教職員による被災地域の仮設住宅・地区世帯に飲料水ペットボトルの運搬・配布、地域住民と芋の子会等も実施し、交流を深めている。

活動場所：陸前高田市広田町、小友町、大槌町

活動状況：①断水緊急時（H23年5～6月）上水道復旧までの期間、ほぼ毎週末、②7月以降は熱中症対策、高齢者世帯への声掛けや住民との対話を大切にして、月1～2回活動、24年度も毎月定期的に活動している。



(4) 学生による支援



⑥ 学生 & 教員によるボランティア活動

《緑のカーテン》



本学教員を中心に組織した「緑のカーテンプロジェクトいわて」は、学生、市民ボランティア、NPOとの協働で被災地仮設住宅に緑のカーテンを設置している。昨年は「宇宙を旅したアサガオ」種子二代目(宇宙航空研究開発機構提供)を用いて仕立てた。今年はそこから採れた三代目種子を大学のビニールハウス内で発芽させ、苗を育てた。このアサガオ苗(1600個体)にゴーヤとプチトマトの苗も加えて仮設住宅団地に運び、プランタに植えた後、ネットとともに各戸の窓際に設置した。

活動場所：釜石市中妻町仮設住宅団地、小佐野仮設住宅団地

活動状況：1 昨年の個体から種子採種、選別、ポットへの土充填、播種、散水 (3月～5月)

2 仮設住宅へ苗などの搬入、プランタへの土充填、移植、アンカー打ち、バーとネットの設置 (6月)

3 成長期の点検、補充、声かけ (7月～9月)

4 枯死個体の撤去、種子の採取 (10月)



(4) 学生による支援

⑦ 岩手県立大学混成合唱団Polish、ぼうさい甲子園の大賞受賞

《学習支援交流プロジェクト 岩手県立大学混成合唱団Polish ミニコンサート ～ウタノワ～》

いわて高等教育コンソーシアムの学習支援交流プロジェクトとして、3月3日、日本キリスト教団宮古協会を会場に岩手県立大学混成合唱サークルPolishが宮古高校音楽部の生徒との合唱交流を実施。

本学学生16名が宮古高校を訪ね、高校生15名との合同練習を経て、同サークルが宮古市において開催するミニコンサートで共演。地域住民が鑑賞する中、9曲を披露し、合唱を通じてお互いの思いを共有した。



《学生ボランティアセンターが「ぼうさい甲子園」の大賞受賞》

学校や地域の優れた防災教育・活動を顕彰する「ぼうさい甲子園」（1. 17防災未来賞）に本学の学生ボランティアセンターが大賞を受賞。

1月13日に神戸市で開かれた「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会では、本学学生ボランティアセンターの学生が、取組（自転車での大学周辺のパトロール活動や全国から東日本大震災の被災地支援に訪れた学生と地元との調整）について報告した。



(5) 地域との連携

① 岩手県立大学公開講座・地区講座の実施

◇ 平成24年度の公開講座を「復興」をテーマに8講座開催

講座	日時	講師	テーマ	受講者数
講座1	7/7	NPO法人参画プランニング・いわて 理事長 平賀 圭子	被災者支援活動から見てきたことー復興と女性の力	105名
講座2	7/21	総合政策学部 准教授 阿部 晃士	意識調査から考える復興への課題 ー「復興に関する大船渡市民の意識調査」よりー	132名
講座3	7/21	看護学部 教授 上林 美保子	在宅療養者の震災被害実態から考える地域防災のあり方	120名
講座4	7/28	総合政策学部 教授 吉野 英岐	コミュニティは震災にどう対応したか ー初動から復興計画づくりに至る道のりから見てきたことー	132名
講座5	7/28	社会福祉学部 教授 宮城 好郎	被災後の高齢者の新たな住まい方	131名
講座6	9/8	社会福祉学部 教授 青木 慎一郎	産業経済の復興と従業員のメンタルヘルス	106名
講座7	9/8	盛岡短期大学部 准教授 乙木 隆子	震災下の被災者における食の意識変化を探り、岩手県民の今後の食生活の方向性をデザインする試み ーイメージmap法を用いてー	105名
講座8	9/29	宮古市産業振興部 部長 佐藤 日出海	震災復興と地域産業	111名
計				942名

(5) 地域との連携

① 岩手県立大学公開講座・地区講座の実施

◇ 釜石地区講座の実施

日時：平成24年11月22日

場所：特別養護老人ホームアミーガはまゆり

テーマ「医療・福祉の情報連携とコミュニティづくり

— 鶴住居での取り組みを事例として今後の復興に資する—

受講者数：40名



◇ 宮古地区講座の実施

日時：平成24年12月20日

場所：岩手県立大学宮古短期大学部

基調報告：「水産業・関連産業・地域社会から
見た被災地復興を考える」

パネルディスカッション：「産業復興、雇用再建
による地域社会の再建・発展を探る」

受講者数：40名



◇ 盛岡地区講座の実施

日時：平成25年3月28日

場所：いわて県民情報交流センター（アイーナキャンパス）

テーマ：「震災復興支援 ICTを活用した医療・福祉連携」

受講者数：40名



(5) 地域との連携

② 「岩手県立大学復興サポートオフィス田老」の設置

- 沿岸地区での復興支援活動を行う拠点として、宮古市田老総合事務所に「岩手県立大学復興サポートオフィス田老」を設置し、12月20日開所式を実施
- サポートオフィスの活動内容
 - ◇本学教員の研究活動
大規模災害時にも繋がる耐故障性を考慮した情報通信インフラの実験基地局として利用するとともに、通常時の三陸沿岸地域に有効なICT(情報通信技術)の拠点として展開。
 - ◇震災復興等における本学教員の活動
現地関係者(団体)等との打合せや現地での活動のまとめ等の作業を行う場として活用。
 - ◇ボランティア等を行う学生の活動拠点
ボランティア活動を行うにあたっての事前の打合せや、事後の振り返り等を行う場として活用。
- 平成25年5月には釜石市平田の釜石・大槌産業育成センターに「岩手県立大学復興サポートオフィス釜石」を設置予定



(6) 他大学との連携

① 平成24年度「いわて学」、震災復興をテーマに開講【前期】

◇ 「いわて学」は、岩手県内5大学連携(いわて高等教育コンソーシアム)による共通授業として岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講している。

平成24年度前期は授業のテーマを『「三陸から知るいわて」～いわての復興を考える』として三陸地方の「自然」「歴史」「復興のすがた」などに焦点を当てた講義やグループワークを実施し、5月19日(土)から6月30日(土)までの15回開講、89名(岩大38名、県大27名、富士大5名、盛大19名)が履修した。

回	日にち		テーマ・内容	講師	会場
1.2	5/19 (土)	9:30~12:45	○授業概要説明 ○グループワークで考える三陸いわて	岩手県立大学 佐々木 民 夫 豊 島 正 幸	アイーナ 803
3.4	5/26 (土)	9:30~12:45	○自然から知る三陸いわて	岩手県立大学 豊 島 正 幸	マリオス 188
5.6 7	6/2 (土)	9:30~15:00	○博物館から知る三陸いわて (岩手県立博物館での現地講義)	岩手県立博物館 学 芸 員	岩手 県立 博物 館
8.9	6/9 (土)	9:30~12:45	○歴史から知る三陸いわて	盛岡大学 熊 谷 常 正	アイーナ 803
10.11 12.13	6/16. 17 (土・日)	1泊2日	○現地で知る三陸いわて (宮古での現地講義)	岩手県立大学 宮古短期大学部 田 中 宜 廣 松 石 泰 彦	宮古
14	6/30 (土)	9:30~11:00	○東日本大震災津波からの復興に向けて	岩手県職員	マリオス 188
15		11:15~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 佐々木 民 夫 豊 島 正 幸	



(6) 他大学との連携

② 平成24年度「いわて学」、震災復興をテーマに開講【後期】

◇ 平成24年度後期は、『「平泉から知るいわて」～いわての復興を考える』をテーマに、10月13日(土)から12月8日(土)までの15回開講、学生82名(岩大28名、県大28名、富士大5名、盛大21名)が履修し、平泉を核としたいわての「地域特性」「魅力」「復興」について学びを深めた。

回		日	内容	講師	会場
1.2	10/13 (土)	9:30~12:45	○授業概要説明 ○グループワークで考える平泉	県大 佐々木・豊島 盛大 熊谷	マリオス 188
3.4	10/20 (土)	9:30~12:45	○平泉から知るいわての歴史	盛岡大学 熊谷 常正	アイーナ 812
5	11/3 (土)	9:30~11:00	○平泉から知るいわての資源(漆)	浄法寺漆産業 松沢 卓生	マリオス 188
6		11:15~12:45	○現地講義に向けて	盛岡大学 熊谷 常正	
7.8.9	11/17 (土)	9:00~16:00 (集合時間等別途指示) ※9:00出発	○平泉現地講義	県大 佐々木・豊島 盛大 熊谷	平泉
10.11	11/24 (土)	8:30~12:45 (集合時間等別途指示) ※8:30出発	○平泉から知るいわての資源(鉄) (南部鉄器製造メーカー「岩鑄」での 現地講義)	南部鉄器製造メーカー 「岩鑄」職員	岩鑄
12	12/1 (土)	9:30~11:00	○世界遺産登録と平泉	岩手県立図書館 館長 中村 英俊	アイーナ 812
13		11:15~12:45	○グループワーク	県大 佐々木・豊島 盛大 熊谷	
14	12/8 (土)	9:30~10:30	○平泉の情報発信と地域振興	県南広域振興局経営企画部 世界遺産推進課 課長 押切 拓也	アイーナ 812
15		10:45~12:45	○グループワーク(まとめ)	県大 佐々木・豊島 盛大 熊谷	



(7) 公立大学協会との連携

- ・11月8日（木）シンポジウム「被災地支援や地域防災に果たす大学と学生の役割」への参加
（会場：静岡県立大学／主催：公立大学協会）

平成24年度公立大学学長会議における特別シンポジウム「被災地支援や地域防災に果たす大学と学生の役割」が開催され、本学からは、佐々木副学長がコーディネーター及びパネリストを務めたほか、学生2名が参加し、全国の公立大学学長と24大学47名の学生とともにディスカッションを行い、その結果を共有した。

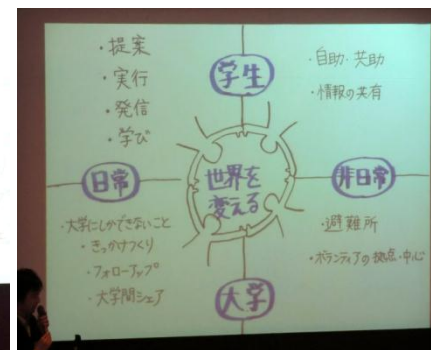
内 容

〔ワークショップ〕

特別シンポジウムに先立ち、震災復興支援や地域ボランティア等の活動経験を積んだ学生たちが、自分たちの地域で行う防災活動や被災地への支援活動について事例を持ち寄り、討論した。

〔学長会議 特別シンポジウム〕

大学の地域防災へのあり方や関わり方、学生が地域防災に果たす役割等を、学長と学生がともにディスカッションを行った。



3 危機管理の対応

(1) 滝沢キャンパスの状況

全学的な防災訓練の実施

11月1日に学生も含む全学関係者を対象とした防災訓練を実施

11月1日に全学的な防災訓練を実施。訓練は、11時50分に震度6強の地震発生を想定して実施され、学生、教職員等1268名が参加(参加率45%)。訓練内容は主に緊急放送訓練、避難訓練、避難誘導訓練、避難者氏名の確認、連絡訓練を実施。来年度以降も全学対象の防災訓練を継続して実施することを決定。

学内の放射線量の管理

9月に学内主要地点(滝沢29箇所、宮古9箇所)における空間放射線量を計測したが、文部科学省通知により除染等の速やかな対策をとることが望ましいとされる「1 μ Sv/h以上」に該当する地点はなかった。

また、24年3月から岩手県と連携し本学敷地内にモニタリングポストを設置し、全国の観測網とリンクして、24時間、365日の観測体制がとられている。

非常用物資貯蓄について

学内に防災倉庫を設置し、災害への備えとして災害対応備蓄品・非常食等(救助工具、多機能ラジオ、トランシーバー、アルファ米、非常用保存水等)を配備した。

節電の取組

平成23年度に引き続き、節電の取組を推進

平成24年度は平成23年度の実績と同程度の節電を目標としつつ、熱中症予防の観点等からの取組を追加した。その結果、7月から9月までの3ヶ月における、ピーク時電力の節電は目標25%程度に対し21.2%の実績、使用電力量の節電は目標20%程度に対し18.5%の実績となった。(対平成22年比)

危機管理マニュアルの整備

・平成24年度に、風水害・火山災害対応マニュアル、学生生活に係る危機管理マニュアル、学生の国際交流に係る危機管理マニュアル等6事象を整備。

その他

・地元滝沢村との「大規模停電時等における臨時避難所としての使用に関する協定」を締結(H24.3.27)
・非常時の滝沢キャンパス、宮古キャンパス間の通信手段の確保等を目的として衛星携帯電話5台(H23.12)、衛星インターネット1台(H24.3)導入

3 危機管理の対応

(2) 宮古キャンパスの状況

・マニュアル作成状況等

配備基準	作成状況
地震	H24.12.21拡大理事会報告済み (地震・津波対策マニュアル)
津波	
	(学内教授会を経てH25.1.30施行済) 「学生便覧2013」に避難場所等とともに掲載
	25.4.9(火)のガイダンスで注意喚起等を実施

・購入物品等

非常用物品購入(H24予算1,500千円)	
購入済物品	
<ul style="list-style-type: none"> 食料品 乾パン・飲料水 寝具類等 毛布 	<ul style="list-style-type: none"> 物品 ヘルメット・手回しラジオ・ 照明機器等

・整備済みの機器等

機器等	整備時期
衛星携帯電話(2台:本部用、移動用)	H23.11
衛星インターネット(PC1台) (パラボラアンテナ付)	H23.12
自家発電装置(大型:2台、小型、2台)	H24.3

・実施済みの対策等(平成24年4月~12月)

対策等	時期	対策等	時期
ガイダンスでの説明(地震や津波に対する備え、避難)	H24.4	災害時安否確認システムを使用した確認訓練	H24.7
学生の住居一覧作成及びゼンリン地図へのプロット	H24.4	ゼミ担当教員から各ゼミ生の安否確認訓練	H24.7
各教室へ「災害時の対応」、「避難経路図」の表示	H24.5	関係団体連絡先一覧作成	H24.7
自家発電装置設置及び使用訓練	H24.5	避難訓練(総合消防訓練と併せて実施)	H24.10
衛星インターネット及び衛星携帯電話使用説明会(事務局職員)	H24.7	災害時安否確認システムを使用した確認訓練(第2回)	H24.12

・実施済みの対策等(平成25年1月~3月)

その他
災害時の宮古警察署への施設貸出について (H24.12.21拡大理事会の承認を経てH25.3.5に協定締結)
初めての「防災講義」を企画し、次のとおり平成25年度から実施予定 平成25年6月5日(水) 必修で全学生対象 講師:岩手県立大学総合政策学部 准教授 伊藤 英之

岩手県立大学は、教職員、学生が
一丸となり、今後も息の長い復興支援
の取組みを推進していきます。

平成24年9月 陸前高田市広田半島
水ボラ活動写真より



平成24年9月 大槌町
オハイオ大学学生とのボランティア活動写真より

